

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成21年11月12日

【四半期会計期間】 第149期第2四半期(自平成21年7月1日至平成21年9月30日)

【会社名】 日本精工株式会社

【英訳名】 NSK Ltd.

【代表者の役職氏名】 代表執行役社長 大塚 紀 男

【本店の所在の場所】 東京都品川区大崎一丁目6番3号

【電話番号】 03(3779)7111(代表)

【事務連絡者氏名】 執行役総務部長 相 島 雅 一

【最寄りの連絡場所】 東京都品川区大崎一丁目6番3号

【電話番号】 03(3779)7111(代表)

【事務連絡者氏名】 執行役総務部長 相 島 雅 一

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所  
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)  
株式会社大阪証券取引所  
(大阪市中央区北浜一丁目8番16号)

## 第一部 【企業情報】

### 第1 【企業の概況】

#### 1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第148期 前第2四半期 連結累計期間	第149期 当第2四半期 連結累計期間	第148期 前第2四半期 連結会計期間	第149期 当第2四半期 連結会計期間	第148期
会計期間	自平成20年4月1日 至平成20年9月30日	自平成21年4月1日 至平成21年9月30日	自平成20年7月1日 至平成20年9月30日	自平成21年7月1日 至平成21年9月30日	自平成20年4月1日 至平成21年3月31日
売上高 (百万円)	383,325	257,871	191,863	142,066	647,593
経常利益又は経常損失 ( ) (百万円)	28,916	8,716	12,733	601	16,964
四半期(当期)純利益又は四半期純損失 ( ) (百万円)	17,666	5,894	8,051	547	4,561
純資産額 (百万円)	-	-	298,144	250,044	248,787
総資産額 (百万円)	-	-	828,477	759,591	744,229
1株当たり純資産額 (円)	-	-	521.28	433.15	431.74
1株当たり四半期(当期)純利益金額又は四半期純損失金額 (円)	32.68	10.90	14.89	1.01	8.44
潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額 (円)	32.67	-	14.89	-	8.44
自己資本比率 (%)	-	-	34.0	30.8	31.4
営業活動によるキャッシュ・フロー (百万円)	14,391	15,574	-	-	11,785
投資活動によるキャッシュ・フロー (百万円)	26,943	15,672	-	-	46,422
財務活動によるキャッシュ・フロー (百万円)	10,792	5,860	-	-	50,529
現金及び現金同等物の四半期末(期末)残高 (百万円)	-	-	89,017	120,276	124,944
従業員数 (人)	-	-	26,024	24,253	24,050

(注) 1 当社は四半期連結財務諸表を作成しているため、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載していません。

2 売上高には、消費税等は含まれておりません。

3 当第2四半期連結累計(会計)期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、四半期純損益が損失のため記載していません。

## 2 【事業の内容】

当第2四半期連結会計期間において、当社及び当社の関係会社が営む事業の内容について、重要な変更はありません。

なお、当第2四半期連結会計期間における主要な関係会社の異動は次のとおりであります。

(連結子会社)

新規設立による増加 : 瀋陽恩斯克精密機器有限公司

所有割合変更による持分法適用会社から連結子会社への異動 : (株)栗林製作所

当社への吸収合併による減少 : N S K 販売(株)

(持分法適用会社)

所有割合変更による持分法適用会社から連結子会社への異動 : (株)栗林製作所

## 3 【関係会社の状況】

当第2四半期連結会計期間において、以下の会社が新たに提出会社の関係会社となりました。

(注) 議決権の所有割合( )内は間接所有割合を内数で示しております。

名称	住所	資本金 又は 出資金	主要な事業 の内容	議決権の所有 (又は被所有) 割合(%)	関係内容				
					役員の兼任等	資金 援助	営業上 の取引	設備の 賃貸借	業務 提携
(連結子会社) 瀋陽恩斯克精密機器有限公司	中国、 瀋陽市	47,796千 中国元	精密機器関連製品の製造・販売	(100.0) 100.0	あり	なし	なし	なし	なし

当第2四半期連結会計期間において、以下の持分法適用会社が所有割合の変更により連結子会社となりました。

名称	住所	資本金 又は 出資金	主要な事業 の内容	議決権の所有 (又は被所有) 割合(%)	関係内容				
					役員の兼任等	資金 援助	営業上 の取引	設備の 賃貸借	業務 提携
(連結子会社) (株)栗林製作所	長野県 埴科郡	185百万円	自動車関連製品の部品の製造・販売	73.5	あり	なし	部品の製造を担当している	当社は土地・建物・設備を賃貸している	なし

なお、当社の連結子会社であるN S K 販売(株)は、平成21年8月1日に当社に吸収合併されました。

## 4 【従業員の状況】

### (1) 連結会社における状況

平成21年9月30日現在

従業員数(人)	24,253
---------	--------

(注) 従業員数は就業人員であります。臨時従業員は、その総数が従業員数の100分の10未満であるため、記載を省略しております。

### (2) 提出会社の状況

平成21年9月30日現在

従業員数(人)	6,131
---------	-------

(注) 従業員数は就業人員であります。臨時従業員は、その総数が従業員数の100分の10未満であるため、記載を省略しております。

## 第2 【事業の状況】

### 1 【生産、受注及び販売の状況】

#### (1) 生産実績

当第2四半期連結会計期間における生産実績を事業の種類別セグメントごとに示すと、次のとおりであります。

事業の種類別セグメントの名称	生産高(百万円)	前年同四半期比(%)
産業機械軸受	42,685	32.5
自動車関連製品	74,846	15.9
精密機器関連製品	6,282	60.1
その他	2,248	54.0
合計	126,063	27.1

(注) 1 金額は平均販売価格によっております。

2 上記生産実績は外注加工費及び購入部品費を含んでおります。

3 金額には消費税等相当分は含まれておりません。

#### (2) 受注状況

当第2四半期連結会計期間における受注状況を事業の種類別セグメントごとに示すと、次のとおりであります。当社グループは主として受注による生産を行っておりますが、一部見込みによる生産を行っております。なお、その他事業につきましては、重要な受注生産を行っておりませんので、記載を省略しております。

事業の種類別セグメントの名称	受注高(百万円)	前年同四半期比(%)	受注残高(百万円)	前年同四半期比(%)
産業機械軸受	47,604	27.1	41,755	35.9
自動車関連製品	106,694	6.9	48,559	13.9
精密機器関連製品	7,380	36.7	4,358	45.2
合計	161,679	15.6	94,673	26.9

(注) 1 金額は平均販売価格によっております。

2 金額には消費税等相当分は含まれておりません。

#### (3) 販売実績

当第2四半期連結会計期間における販売実績を事業の種類別セグメントごとに示すと、次のとおりであります。

事業の種類別セグメントの名称	販売高(百万円)	前年同四半期比(%)
産業機械軸受	41,108	32.7
自動車関連製品	89,005	16.2
精密機器関連製品	7,362	54.4
その他	4,588	45.9
合計	142,066	26.0

(注) 1 当社グループの製品は多品種であり、適切な数量表示が困難なため、金額のみによって表示しております。

2 金額には消費税等相当分は含まれておりません。

## 2 【事業等のリスク】

当第2四半期連結会計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。  
また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクの内容に重要な変更はありません。

## 3 【経営上の重要な契約等】

該当事項はありません。

## 4 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

### (1) 業績の状況

当第2四半期連結会計期間のグローバル経済は、各国政府による政策効果もあり、前年度後半からの急激な景気悪化に対し、底打ちの兆しがみられました。

当社グループの事業領域におきましては、自動車向けは、自動車メーカーの在庫調整の終了や各国の販売優遇措置などの景気刺激策により、回復基調となりました。産業機械向けは、企業の収益力低下や生産設備の余剰感による投資抑制が続いており、回復は弱いものとなっております。

こうした経営環境において、当社グループは、収益体質改善委員会を設置し、外部調達費や販売管理費の削減、生産体制の再編について取り組むとともに、産業機械軸受や精密機器関連製品の拡販に努めてまいりました。

当第2四半期連結会計期間の売上高は1,420億66百万円と前年同四半期に比べ26.0%の減収となりました。営業利益は、物量減や円高による輸出採算の悪化に対し、人件費や経費の削減、外部調達コストの削減に努めましたものの、6億6百万円と前年同四半期に比べ95.5%の減益となりました。経常損失は6億1百万円（前年同四半期は127億33百万円の経常利益）となりました。

特別損失に事業構造改善費用11億20百万円を計上し、税金費用、少数株主利益を控除した結果、四半期純損失は5億47百万円（前年同四半期は80億51百万円の四半期純利益）となりました。

事業の種類別セグメントの業績は次のとおりであります。

#### 産業機械軸受

売上高は、一般産業向けや電機向け、アフターマーケット向けがグローバルに需要低迷の影響を受けて減少しました。

この結果、売上高は411億8百万円（前年同四半期比 32.7%）となりました。営業利益は、人件費や経費の削減に努めましたが、大幅な物量の減少により、13億77百万円（前年同四半期比 82.8%）となりました。

#### 自動車関連製品

自動車軸受及び自動車部品の売上高は、自動車メーカーの在庫調整の終了や各国の販売優遇措置の効果により、回復基調にあるものの、グローバルに自動車販売台数が減少したことから減少となりました。

この結果、売上高は890億5百万円（前年同四半期比 16.2%）となりました。営業利益は、人件費や経費の削減、外部調達コストの削減に努めましたが、物量減や円高による輸出採算の悪化から37億71百万円（前年同四半期比 19.7%）となりました。

## 精密機器関連製品

売上高は、工作機械向け、半導体製造装置向けの販売が減少したため、ボールねじを中心とした直動製品が減少しました。

この結果、売上高は73億62百万円（前年同四半期比 54.4%）となりました。利益面では、人件費や経費の削減に努めましたが、物量の減少により営業損失26億55百万円（前年同四半期は15億68万円の営業利益）となりました。

## その他

その他部門の売上高は、外部顧客向け鋼球の減少などにより、売上高は79億16百万円（前年同四半期比 49.7%）、営業損失は2億90百万円（前年同四半期は8億14百万円の営業利益）となりました。

所在地別セグメントの業績は次のとおりであります。

## 日本

産業機械軸受の売上高は、一般産業向けや電機向け、アフターマーケット向けが減少しました。自動車関連製品は、自動車のエコカー減税、買換え補助金などの販売優遇措置により、回復基調であるものの、自動車販売台数の減少の影響を受けて減少となりました。精密機器関連製品は、工作機械向けや半導体製造装置向けが減少しました。

この結果、日本の売上高は1,040億49百万円（前年同四半期比 27.2%）となりました。利益面では、人件費や経費の削減、外部調達コストの削減による効果はあるものの、大幅な物量の減少、円高による輸出採算の悪化などにより営業損失7億62百万円（前年同四半期は74億85百万円の営業利益）となりました。

## 米州

産業機械軸受の売上高は、一般産業向けや電機向け、アフターマーケット向けが減少しました。自動車関連製品は、販売優遇措置により、回復基調であるものの、自動車販売台数の減少の影響を受けて減少しました。精密機器関連製品は、工作機械向けや半導体製造装置向けが減少しました。

この結果、米州の売上高は170億37百万円（前年同四半期比 30.0%）となりました。営業利益は、人件費や経費の削減による効果はあるものの、大幅な物量の減少により、5億47百万円（前年同四半期比 59.9%）となりました。

## 欧州

産業機械軸受の売上高は、景気悪化の影響を受け一般産業向けや電機向け、アフターマーケット向けが減少しました。自動車関連製品は、販売優遇措置により電動パワーステアリングの増加はあるものの、自動車販売台数の減少の影響を受けて減少となりました。精密機器関連製品は需要の低迷の影響を受け工作機械向けが減少しました。

この結果、欧州の売上高は241億16百万円（前年同四半期比 29.7%）となりました。営業利益は、人件費や経費の削減、外部調達コストの削減による効果はあるものの、大幅な物量の減少などにより8億29百万円（前年同四半期比 68.4%）となりました。

## アジア

産業機械軸受の売上高は、中国での一般産業向けの増加はあるものの、その他は需要低迷の影響を受けて減少となりました。自動車関連製品は、中国における販売優遇措置の効果により回復基調となりましたが、その他の地域の自動車販売台数の低迷の影響を受けて減少となりました。精密機器関連製品は、主に台湾の需要低迷の影響を受けて減少しました。

この結果、アジアの売上高は245億33百万円（前年同四半期比 21.6%）となりました。営業利益は、人件費や経費の削減による効果はあるものの、物量の減少などにより13億45百万円（前年同四半期比 61.5%）となりました。

### (2) 財政状態の分析

資産合計は、7,595億91百万円となり、前連結会計年度末に比べて153億61百万円増加しました。主な増加は、受取手形及び売掛金174億89百万円、株式市場の上昇などに伴う投資有価証券112億21百万円であり、主な減少は、有形固定資産50億77百万円、たな卸資産31億72百万円によるものであります。

負債合計は、5,095億46百万円となり、前連結会計年度末に比べて141億3百万円増加しました。主な増加は、支払手形及び買掛金151億36百万円によるものであります。

純資産合計は、2,500億44百万円となり、前連結会計年度末に比べて12億57百万円増加しました。主な増加は、その他有価証券評価差額金50億29百万円、為替換算調整勘定37億84百万円であり、主な減少は、四半期純損失58億94百万円によるものであります。

### (3) キャッシュ・フローの状況

#### （営業活動によるキャッシュ・フロー）

当第2四半期連結会計期間における営業活動によるキャッシュ・フローは、仕入債務の増加164億12百万円、減価償却費92億58百万円などによる収入がありましたが、売上債権の増加159億54百万円などの支出により、108億79百万円の収入（前年同四半期比94億2百万円の収入増）となりました。

#### （投資活動によるキャッシュ・フロー）

当第2四半期連結会計期間における投資活動によるキャッシュ・フローは、有形固定資産の取得64億55百万円、投資有価証券の取得32億51百万円などにより、94億99百万円の支出（前年同四半期比45億40百万円の支出減）となりました。

#### （財務活動によるキャッシュ・フロー）

当第2四半期連結会計期間における財務活動によるキャッシュ・フローは、短期借入金の減少28億3百万円などにより、35億74百万円の支出（前年同四半期比66億80百万円の支出増）となりました。

これらの結果、当第2四半期連結会計期間末の現金及び現金同等物の残高は、1,202億76百万円となり、第1四半期連結会計期間末と比べて27億21百万円の減少（前年同四半期比312億59百万円の増加）となりました。

#### (4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結会計期間において、当社グループの事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更はありません。

なお、当社は財務及び事業の方針の決定を支配する者の在り方に関する基本方針を定めており、その内容等（平成21年法務省令第7号による改正前会社法施行規則第127条各号に掲げる事項）は次のとおりです。

##### ・ 当社の財務及び事業の方針の決定を支配する者の在り方に関する基本方針の内容

当社グループは、株主・投資家、顧客、国内外の製造・販売会社、地域社会、従業員等の様々なステークホルダーとの相互関係に基づき成り立っています。当社は、当社グループの使命は、社会・環境・経済の全ての面においてバランスのとれた経営を行い、全てのステークホルダーに対する社会的責任を果たすと同時に、本業に徹することにより当社グループの企業価値を増大させることであると考えています。

当社は、資本市場に公開された株式会社であるため、当社に対して投資をしていただいている株主の皆様には、当社のかかる考えにご賛同いただいた上で、そのご判断により当社の経営を当社経営陣に対して委ねていただいているものと理解しています。かかる理解のもと、当社は、当社の財務及び事業の決定を支配する者の在り方についても、最終的には、株主の皆様のご判断によるべきであると考えています。従いまして、当社株式の大量の買付行為がなされた場合にそれに応じるべきか否かは、最終的には株主の皆様のご判断に委ねられるべきであると考えます。

しかしながら、昨今のわが国の資本市場の状況を考慮すると、対象となる企業の株主の皆様及び投資家の皆様に対する必要十分な情報開示や熟慮のための機会が与えられることなく、あるいは対象となる企業の取締役会が意見表明を行い、代替案を提案するための情報や時間が提供されずに、突如として、株式の大量の買付行為が強行される可能性も否定できません。このような株式の大量の買付行為の中には、真摯に合理的な経営を行う意思が認められないもの等当社の企業価値ひいては株主の皆様の共同の利益を毀損する買付行為もあり得るものです。

かかる当社の企業価値ひいては株主の皆様の共同の利益を毀損するおそれがある当社株式の大量の買付行為を行う者は、当社の財務及び事業の方針の決定を支配する者として不適切であると考えます。

##### ・ 当社の財産の有効な活用、適切な企業集団の形成その他の基本方針の実現に資する特別な取組み

###### 1. 中期経営計画等による企業価値向上への取組み

当社は、企業価値ひいては株主の皆様の共同の利益を確保・向上させるため、平成24年度迄の中期経営計画について、本年10月に策定し、推進しております。かかる中期経営計画においても、トータル・クオリティーNo.1を追求し、従来より掲げておりました「成長戦略」と「体質強化」の推進という基本方針に加え、「事業軸の強化」により販売・生産・技術が一体となった顧客・事業軸中心の経営を加速させていきます。経営課題については、1) 営業力の強化 2) 技術開発力の強化 3) 生産力の強化 4) グローバルマネジメント力の強化 5) 人材育成力の強化 について重点的に推進していき、事業環境の大きな変化の中で、事業基盤の再構築と収益力を重視した成長を目指してまいります。

また、当社は、事業を通じて世界中のエネルギーロスを削減することが当社グループの社会的責任と捉え、地球環境の保全と社会の持続可能な発展に向けて貢献すべく環境経営のレベルアップを着実に



推進し、様々なステークホルダーとの信頼関係構築に努めていきます。

## 2. コーポレート・ガバナンスに関する取組み

当社は、社会的責任を果たし、企業としての適切な利益を確保し続け、企業価値ひいては株主の皆様  
の共同の利益を確保・向上させるために、経営の透明性と健全性を高めていく具体的な体制を積極的  
に採用しています。平成11年には、当社は執行役員制度を導入のうえ、社外取締役を招聘し、任意に報酬  
委員会を設置しました。また、平成15年には、任意に監査委員会を設置しています。そして、平成16年  
には委員会等設置会社に移行し、平成18年には会社法に基づく委員会設置会社となり、監査・報酬・指名  
の3つの委員会は、それぞれ2名の社外取締役と1名の社内取締役で構成され、透明性と健全性の向上  
に努めています。

### ・基本方針に照らして不適切な者によって当社の財務及び事業の方針の決定が支配されることを防止す るための取組み

当社は、平成20年4月23日開催の当社取締役会において、上記 記載の当社の財務及び事業の方針の決  
定を支配する者の在り方に関する基本方針（平成21年法務省令第7号による改正前会社法施行規則第  
127条柱書に規定されるものをいい、以下「基本方針」といいます。）を定めるとともに、当社の企業価値  
ひいては株主の皆様の共同の利益を確保し、向上させるために、この基本方針に照らして不適切な者  
によって当社の財務及び事業の方針の決定が支配されることを防止するための取組み（同規則第127条第  
2号口）として、平成20年6月25日開催の当社株主総会において関連議案が承認されることを条件とし  
て、特定の者またはグループによって当社株式の一定規模以上の買付行為が行われた場合の対応策（以  
下「本プラン」といいます。）を導入することを決定し、同株主総会において関連議案がいずれも承認さ  
れ、本プランが導入されました。

#### （イ）本プランの対象となる大量買付行為

本プランは、特定株主グループの議決権割合を20%以上とすることを目的とする当社株券等の買付  
行為、または結果として特定株主グループの議決権割合が20%以上となる当社株券等の買付行為（市  
場取引、公開買付けその他具体的な買付方法の如何を問いません。）を適用対象とします。但し、あらか  
じめ当社取締役会が同意した買付行為は、本プランの適用対象からは除外します。なお、本プランの適  
用を受ける買付行為を以下「大量買付行為」といい、大量買付行為を行いまは行おうとする者を以  
下「大量買付者」といいます。

#### （ロ）大量買付ルールの設定

##### ・意向表明書の事前提出

大量買付者には、大量買付行為の実行に先立ち、当社代表執行役社長宛に、本プランに定めら  
れた所定の手続（以下「大量買付ルール」といいます。）に従う旨の誓約等を日本語で記載し  
た「意向表明書」をご提出いただきます。

##### ・本必要情報の提供

当社取締役会は、上記 . の意向表明書受領後10営業日以内に、大量買付者から提供していた  
だくべき情報を記載したリストを当該大量買付者に対して交付いたします。大量買付者には、  
当社取締役会に対して、かかるリストに従って、大量買付行為に対する株主の皆様のご判断及  
び当社取締役会の評価・検討等のために必要かつ十分な情報（以下「本必要情報」といいま  
す。）を提供していただきます。

次いで、当社取締役会は、大量買付者から提供された情報を精査し、当該情報だけでは本必要

情報として不十分と認められる場合には、大量買付者に対して追加的に情報提供を求めることができるものとし、大量買付者から追加的に受領した情報についても同様とします。

#### ・ 取締役会による評価期間の設定等

当社取締役会は、本必要情報を受領した後、大量買付行為の内容に応じて最大60日間または最大90日間を当社取締役会による評価、検討、交渉、意見形成、代替案立案のための期間（以下「取締役会評価期間」といいます。）として設定いたします。但し、当社取締役会は、当社取締役全員が出席する取締役会の全会一致の決議により、取締役会評価期間を必要な範囲内で、最大30日間延長できるものとし、

大量買付行為は、取締役会評価期間の経過後にのみ開始されるものとし、

取締役会評価期間中、当社取締役会は、大量買付者から提供された本必要情報を十分に評価・検討し、当社の企業価値ひいては株主の皆様様の共同の利益の確保・向上の観点から、当社取締役会としての意見を慎重にとりまとめ、公表いたします。また、必要に応じ、大量買付者との間で大量買付行為に関する条件改善について交渉し、また当社取締役会として当社株主の皆様に対し代替案を提示することもあります。

#### （八） 対抗措置の発動

大量買付者が大量買付ルールを遵守した場合、当社取締役会は、仮に当該大量買付行為に反対であったとしても、反対意見の表明、代替案の提示、株主の皆様への説明等を行う可能性は排除しないものの、当該大量買付行為に対する対抗措置は講じません。

但し、当該大量買付行為が当社の企業価値ひいては株主の皆様様の共同の利益を著しく損なうおそれがある場合には、取締役会評価期間満了後に、株主総会を開催し、大量買付行為に対し、対抗措置を発動すべきか否かを株主の皆様のご判断に委ねるものとし、もっとも、株主の皆様が大量買付行為に感じるか否かの判断を株主の皆様のご判断に委ねるのが相当であり、対抗措置を発動することが適切ではないと当社取締役会が判断する場合には、株主総会を開催しないことができるものとし、この場合、当社取締役会は、当該大量買付行為に対し対抗措置を発動しません。

また、当社取締役会は、大量買付者がいわゆるグリーンメイラーである場合、大量買付者の提案する当社の株券等の買付方法が、いわゆる強圧的二段階買付けに代表される、構造上株主の皆様様の判断の機会または自由を制約し、事実上、株主の皆様に当社株式の売却を強要するおそれがある場合等、大量買付行為が一定の類型に該当し、当社の企業価値ひいては株主の皆様様の共同の利益を著しく損なう場合には、例外的に対抗措置を発動することがあります。

これに対して、大量買付者が大量買付ルールを遵守しない場合には、具体的な買付方法の如何にかかわらず、当社取締役会は、当社の企業価値ひいては株主共同の利益を確保・向上させることを目的として、対抗措置を発動する場合があります。大量買付者が大量買付ルールを遵守したか否か及び対抗措置の発動の是非は、外部専門家等の意見も参考にし、当社取締役会が決定いたします。

但し、当社取締役会が、株主の皆様のご意思を確認するために株主総会を開催することが実務上可能であり、かつ、当社取締役会が株主の皆様のご意思を確認するために株主総会を開催し、対抗措置を発動することの是非について株主の皆様にご判断いただくことが適切であると判断した場合には、取締役会評価期間満了後に、株主総会を開催し、大量買付行為に対し、対抗措置を発動することの是非について株主の皆様のご判断に委ねるものとし、

なお、本プランにおける対抗措置としては、新株予約権無償割当てを行います。

また、対抗措置発動に係る当社取締役会の決定（株主総会の決議に基づく場合を除きます。）は、取締役全員が出席する取締役会の全会一致の決議によるものとし、

#### （二） 株主意思の確認手続

当社取締役会は、上記（八）のとおり、株主総会を開催し、対抗措置を発動することの是非について株主の皆様にご判断いただく場合には、取締役会評価期間満了後に、法令及び当社定款の定めに従って、速やかに株主総会を開催し、大量買付行為に対し、対抗措置を発動することの是非について株主の皆様のご判断に委ねるものとします。この場合、当社取締役会は、取締役会評価期間満了後60日以内に株主総会を開催し、大量買付行為への対抗措置の発動に関する議案を株主総会に上程するものとしませんが、事務手続上の理由から60日以内に開催できない場合は、事務手続上可能な最も早い日において開催するものとします。

株主総会を開催する場合には、大量買付者は、当該株主総会終結時まで、大量買付行為を開始してはならないものとします。

#### （ホ）本プランの有効期間

本プランの有効期間は、平成20年6月25日開催の当社株主総会終了後3年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時株主総会終結の時まで（平成23年6月に開催予定の定時株主総会終結の時まで）とし、以降、本プランの継続（一部修正した上での継続を含みます。）については3年ごとに定時株主総会の承認を得ることとします。

なお、本プランの詳細につきましては、当社ウェブサイト（<http://www.nsk.com>）に掲載しています平成20年4月23日付当社プレスリリース「当社株式の大量買付行為に関する対応策（買収防衛策）の導入に関するお知らせ」をご参照ください。

#### ・上記の取組みについての取締役会の判断

上記の取組みは、当社の中長期的な企業価値の向上のための基本的な取組みの一環であり、当社の企業価値ひいては株主の皆様の共同の利益を向上させることを目的として実施しているものです。かかる取組みを通じて、当社の企業価値ひいては株主の皆様の共同の利益を向上させることにより、上記記載の当社の企業価値ひいては株主の皆様の共同の利益を毀損するおそれがある当社株式の大量の買付行為は困難になるものと考えられ、よって、上記の取組みは、上記の基本方針の実現に資するものであると考えております。

従いまして、上記の取組みは上記の基本方針に沿うものであり、当社の株主の皆様の共同の利益を損なうものではなく、また、当社の役員の地位の維持を目的とするものではないと考えております。

#### ・上記の取組みについての取締役会の判断

上記の取組みは、当社の企業価値ひいては株主の皆様の共同の利益を確保・向上させることを目的として、大量買付者に対して、当該大量買付者が実施しようとする大量買付行為に関する必要な情報の提供、及び、その内容の評価・検討等に必要な期間の確保を求め、最終判断を行う当社株主の皆様が、株式の大量の買付行為の提案の内容を十分に理解し、適切な判断（インフォームド・ジャッジメント）を行えるようにするために導入されるものです。また、上記の取組みにおいては、そのような情報提供と検討等の期間の確保の要請に応じない大量買付者に対して取締役会決議により対抗措置を発動できるとするとともに、かかる要請に応じた大量買付者であっても、当該大量買付者が実施しようとする大量買付行為が当社の企業価値ひいては株主の皆様の共同の利益を著しく損なうおそれがある場合には、株主総会決議により対抗措置を発動できる（但し、一定の類型に該当し、当社の企業価値ひいては株主の皆様の共同の利益を著しく損なう場合には取締役会決議により発動できます。）こととすることで、これらの大量買付者による大量買付行為を防止するものであり、よって、上記の基本方針に照らして不適切な者によって当社の財務及び事業の方針の決定が支配されることを防止するための取組みであります。さらに、

上記 の取組みにおいては、大量買付者が大量買付ルールを遵守している場合において対抗措置を発動しようとする場合には、原則として、株主総会を開催して、対抗措置を発動することの是非について株主の皆様にご判断いただくこととしており、また、大量買付者が大量買付ルールを遵守していない場合を含め、当社取締役会が対抗措置の発動を決定する場合には、独立性のある社外取締役を含む取締役全員が出席する当社取締役会の全会一致の決議によることとしており、当社取締役会の恣意的な判断を排し、上記 の取組みの合理性及び公正性を確保するための様々な制度及び手続が確保されているものであります。

従いまして、上記 の取組みは上記 の基本方針に沿うものであり、当社の株主の皆様の共同の利益を損なうものではなく、また、当社の役員の地位の維持を目的とするものではないと考えております。

#### (5) 研究開発活動

当第2四半期連結会計期間におけるグループ全体の研究開発活動の金額は、21億94百万円であります。なお、研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

### 第3 【設備の状況】

(1) 主要な設備の状況

当第2四半期連結会計期間において、主要な設備に重要な異動はありません。

(2) 設備の新設、除却等の計画

当第2四半期連結会計期間において、重要な設備の新設、除却等の計画に重要な変更はありません。

## 第4 【提出会社の状況】

### 1 【株式等の状況】

#### (1) 【株式の総数等】

##### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	1,700,000,000
計	1,700,000,000

##### 【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成21年9月30日)	提出日現在 発行数(株) (平成21年11月12日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	551,268,104	551,268,104	東京証券取引所(市場第一部) 大阪証券取引所(市場第一部)	単元株式数は1,000株
計	551,268,104	551,268,104		

(注) 「提出日現在発行数」には、平成21年11月1日からこの四半期報告書提出日までの新株予約権の権利行使により発行された株式数は、含まれておりません。

(2) 【新株予約権等の状況】

平成13年改正旧商法第280条ノ20及び第280条ノ21の規定に基づく、ストック・オプションの概要は次のとおりであります。

株主総会の特別決議日(平成17年6月29日)	
	第2四半期会計期間末現在 (平成21年9月30日)
新株予約権の数(個)	413(注)1
新株予約権のうち自己新株予約権の数(個)	
新株予約権の目的となる株式の種類	普通株式 単元株式数は1,000株
新株予約権の目的となる株式の数(株)	413,000(注)2
新株予約権の行使時の払込金額(円)	615(注)3
新株予約権の行使期間	自平成17年8月18日 至平成22年8月17日
新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額(円)	発行価格 615 資本組入額 308
新株予約権の行使の条件	新株予約権の割当を受けた者(以下、「新株予約権者」という。)は、本件新株予約権の行使時において、当社の取締役、執行役、従業員または当社関係会社の取締役であることを要する。但し、その地位を失った後も、平成17年6月29日開催の株主総会決議及び平成17年7月29日開催の取締役会決議に基づき、当社と対象者との間で締結する「新株予約権割当契約」の定めに従い権利を行使することができる。 その他の条件については、「新株予約権割当契約」に定める条件に従い、これを行使することができる。
新株予約権の譲渡に関する事項	新株予約権を譲渡するときは、当社取締役会の承認を要するものとする。
代用払込みにに関する事項	
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	

- (注) 1 新株予約権1個につき目的となる株式数は、1,000株である。  
2 当社が株式分割または株式併合を行う場合、次の算式により新株予約権の目的となる株式の数を調整するものとする。但し、かかる調整は、新株予約権のうち、当該時点で行使されていない新株予約権の目的となる株式の数についてのみ行われ、調整の結果生じる1株未満の端数については、これを切り捨てるものとする。  
調整後株式数 = 調整前株式数 × 分割・併合の比率  
また、当社が他社と吸収合併もしくは新設合併を行い本件新株予約権が承継される場合、または当社が新設分割もしくは吸収分割を行う場合、当社は必要と認める株式数の調整を行うものとする。  
3 当社が株式分割または株式併合を行う場合、次の算式により行使価額を調整し、調整により生ずる1円未満の端数は切り上げる。

$$\text{調整後行使価額} = \text{調整前行使価額} \times \frac{1}{\text{分割・併合の比率}}$$

また、時価を下回る価額で当社普通株式につき、新株の発行または自己株式の処分を行う場合は、次の算式により行使価額を調整し、調整により生ずる1円未満の端数は切り上げる。但し、新株予約権の行使の場合は、行使価額の調整は行わないこととする。

$$\text{調整後行使価額} = \text{調整前行使価額} \times \frac{\text{既発行株式数} + \frac{\text{新発行株式数} \times 1 \text{株当たり払込金額}}{\text{時価}}}{\text{既発行株式数} + \text{新発行株式数}}$$

なお、上記株式数において「既発行株式数」とは、当社の発行済株式総数から当社の保有する自己株式の総数を控除した数とし、また自己株式を処分する場合には、「新発行株式数」を「処分する自己株式数」に読み替えるものとする。

また、当社が他社と吸収合併もしくは新設合併を行い本件新株予約権が承継される場合、また、当社が新設分割もしくは吸収分割を行う場合、当社は必要と認める行使価額の調整を行うものとする。





会社法第236条、第238及び第239条の規定に基づく、ストック・オプションの概要は次のとおりであります。

株主総会の特別決議日(平成18年6月27日)	
	第2四半期会計期間末現在 (平成21年9月30日)
新株予約権の数(個)	662(注)1
新株予約権のうち自己新株予約権の数(個)	
新株予約権の目的となる株式の種類	普通株式 単元株式数は1,000株
新株予約権の目的となる株式の数(株)	662,000(注)2
新株予約権の行使時の払込金額(円)	928(注)3
新株予約権の行使期間	自平成18年8月25日 至平成23年8月24日
新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額(円)	発行価格 928 資本組入額 464
新株予約権の行使の条件	<p>新株予約権の割当を受けた者は、権利行使の時点において当社の取締役、執行役、使用人、相談役、顧問または関係会社の取締役、執行役員、顧問その他これらに準ずる地位であることを要する。但し、任期満了による退任、定年退職その他正当な理由がある場合には、その地位を失った後も、その日から2年が経過する日(但し、権利行使期間内)までに限り、行使することができる。</p> <p>新株予約権者は、新株予約権個数の全部または一部につき行使することができる。但し、一部を行使する場合には、割り当てられた新株予約権の整数倍の単位で行使するものとする。</p> <p>その他の条件については、当社と新株予約権の割当を受ける者との間で締結する新株予約権割当契約に定めるところによる。</p>
新株予約権の譲渡に関する事項	譲渡による当該新株予約権の取得については、当社取締役会の承認を要する。
代用払込みにに関する事項	
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	(注)4

- (注) 1 新株予約権1個につき目的となる株式数は、1,000株である。
- 2 当社が株式分割または株式併合を行う場合、次の算式により目的となる株式の数を調整するものとする。但し、かかる調整は、新株予約権のうち、当該時点で行使されていない新株予約権の目的となる株式の数についてのみ行われ、調整により生ずる1株未満の端数については、これを切り捨てる。
- 調整後株式数 = 調整前株式数 × 分割・併合の比率
- また、当社が資本の減少を行う場合等、目的たる株式数の調整を必要とする場合には、当社は必要と認める株式数の調整を行うものとし、調整により生ずる1株未満の端数は切り捨てる。
- 3 当社が株式分割または株式併合を行う場合、次の算式により行使価額を調整し、調整により生ずる1円未満の端数は切り上げる。

$$\text{調整後行使価額} = \text{調整前行使価額} \times \frac{1}{\text{分割・併合の比率}}$$

また、時価を下回る価額で当社普通株式につき、新株の発行または自己株式の処分を行う場合は、次の算式により行使価額を調整し、調整により生ずる1円未満の端数は切り上げる。但し、新株予約権の行使の場合は、行使価額の調整は行わないこととする。

$$\text{調整後行使価額} = \text{調整前行使価額} \times \frac{\text{既発行株式数} + \frac{\text{新発行株式数} \times 1 \text{株当たり払込金額}}{\text{時価}}}{\text{既発行株式数} + \text{新発行株式数}}$$

なお、上記株式数において「既発行株式数」とは、当社の発行済株式総数から当社の保有する自己株式の総数を控除した数とし、また自己株式を処分する場合には、「新発行株式数」を「処分する自己株式数」に読み替えるものとする。

また、当社が資本の減少を行う場合等、行使価額の調整を必要とする場合には、当社は必要と認める行使価額の調整を行うものとし、調整により生ずる1円未満の端数は切り上げる。

- 4 当社が合併（合併により当社が消滅する場合に限る。）、吸収分割、新設分割、株式交換及び株式移転（以下、組織再編行為という。）をする場合においては、本新株予約権者に合併後存続する株式会社または合併により設立する株式会社、分割する事業に関して有する権利義務の全部または一部を承継する株式会社、新設分割により設立する株式会社、当社の発行済株式の全部を取得する株式会社及び株式移転により設立する株式会社（以下、再編対象会社という。）の新株予約権を下記の条件で交付することができる。

新株予約権の目的となる株式の種類

再編対象会社の普通株式

新株予約権の目的となる株式の数

組織再編行為の条件に応じて合理的に調整を行うものとし、調整により生ずる1株未満の端数は切り捨てる。

新株予約権の行使に際して出資される財産の価額

組織再編行為の条件に応じて合理的に調整を行うものとし、調整により生ずる1円未満の端数は切り上げる。

新株予約権の行使期間

上記「新株予約権の行使期間」に定める新株予約権を行使することができる期間の開始日と組織再編行為の効力発生日のいずれか遅い日から、上記「新株予約権の行使期間」に定める新株予約権を行使することができる期間の満了日までとする。

行使条件

上記「新株予約権の行使の条件」に準じて定めるものとする。

新株予約権の行使により株式を発行する場合における増加する資本金及び資本準備金に関する事項

上記「新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額」に準じて定めるものとする。

新株予約権の取得承認

譲渡による当該新株予約権の取得については、再編対象会社の承認を要する。

株主総会の特別決議日(平成19年 6月26日)	
	第2四半期会計期間末現在 (平成21年 9月30日)
新株予約権の数(個)	743(注) 1
新株予約権のうち自己新株予約権の数(個)	
新株予約権の目的となる株式の種類	普通株式 単元株式数は1,000株
新株予約権の目的となる株式の数(株)	743,000(注) 2
新株予約権の行使時の払込金額(円)	1,312 (注) 3
新株予約権の行使期間	自 平成19年 8月28日 至 平成24年 8月27日
新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額(円)	発行価格 1,312 資本組入額 656
新株予約権の行使の条件	<p>新株予約権の割当を受けた者は、権利行使の時点において当社の取締役、執行役、使用人、相談役、顧問または関係会社の取締役、執行役員、顧問その他これらに準ずる地位であることを要する。但し、任期満了による退任、定年退職その他正当な理由がある場合には、その地位を失った後も、その日から2年が経過する日(但し、権利行使期間内)までに限り、行使することができる。</p> <p>新株予約権者は、新株予約権個数の全部または一部につき行使することができる。但し、一部を行使する場合には、割り当てられた新株予約権の整数倍の単位で行使するものとする。</p> <p>その他の条件については、当社と新株予約権の割当を受ける者との間で締結する新株予約権割当契約に定めるところによる。</p>
新株予約権の譲渡に関する事項	譲渡による当該新株予約権の取得については、当社取締役会の承認を要する。
代用払込みに関する事項	
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	(注) 4

- (注) 1 新株予約権 1 個につき目的となる株式数は、1,000株である。
- 2 当社が株式分割または株式併合を行う場合、次の算式により目的となる株式の数を調整するものとする。但し、かかる調整は、新株予約権のうち、当該時点で行使されていない新株予約権の目的となる株式の数についてのみ行われ、調整により生ずる 1 株未満の端数については、これを切り捨てるものとする。
- 調整後株式数 = 調整前株式数 × 分割・併合の比率
- また、当社が資本の減少を行う場合等、目的たる株式数の調整を必要とする場合には、当社は必要と認める株式数の調整を行うものとし、調整により生ずる 1 株未満の端数は切り捨てる。
- 3 当社が株式分割または株式併合を行う場合、次の算式により行使価額を調整し、調整により生ずる 1 円未満の端数は切り上げる。

$$\text{調整後行使価額} = \text{調整前行使価額} \times \frac{1}{\text{分割・併合の比率}}$$

また、時価を下回る価額で当社普通株式につき、新株の発行または自己株式の処分を行う場合は、次の算式により行使価額を調整し、調整により生ずる1円未満の端数は切り上げる。但し、新株予約権の行使の場合は、行使価額の調整は行わないこととする。

$$\text{調整後行使価額} = \text{調整前行使価額} \times \frac{\text{既発行株式数} + \frac{\text{新発行株式数} \times 1 \text{株当たり払込金額}}{\text{時価}}}{\text{既発行株式数} + \text{新発行株式数}}$$

なお、上記株式数において「既発行株式数」とは、当社の発行済株式総数から当社の保有する自己株式の総数を控除した数とし、また自己株式を処分する場合には、「新発行株式数」を「処分する自己株式数」に読み替えるものとする。

また、当社が資本の減少を行う場合等、行使価額の調整を必要とする場合には、当社は必要と認める行使価額の調整を行うものとし、調整により生ずる1円未満の端数は切り上げる。

- 4 当社が合併（合併により当社が消滅する場合に限る。）、吸収分割、新設分割、株式交換及び株式移転（以下「組織再編行為」という。）をする場合においては、組織再編行為の効力発生時点において残存する新株予約権（以下「残存新株予約権」という。）の新株予約権者に対し、合併後存続する株式会社または合併により設立する株式会社、分割する事業に関して有する権利義務の全部または一部を承継する株式会社、新設分割により設立する株式会社、当社の発行済株式の全部を取得する株式会社及び株式移転により設立する株式会社（以下「再編対象会社」という。）の新株予約権を下記の条件で交付することとする。この場合においては、残存新株予約権は消滅し、再編対象会社は新株予約権を新たに発行するものとする。但し、以下の条件に沿って再編対象会社の新株予約権を交付する旨を、吸収合併契約、新設合併契約、吸収分割契約、新設分割契約、株式交換契約または株式移転計画において定めた場合に限るものとする。

交付する再編対象会社の新株予約権の数

組織再編行為の効力発生の時点において残存する新株予約権の数と同一の数とする。

新株予約権の目的となる株式の種類

再編対象会社の普通株式

新株予約権の目的となる株式の数

組織再編行為の条件に応じて合理的に調整された数とし、調整により生ずる1円未満の端数は切り捨てる。

新株予約権の行使に際して出資される財産の価額

組織再編行為の条件に応じて合理的に調整された額とし、調整により生ずる1円未満の端数は切り上げる。

新株予約権の行使期間

上記「新株予約権の行使期間」に定める新株予約権を行使することができる期間の開始日と組織再編行為の効力発生日のいずれか遅い日から、上記「新株予約権の行使期間」に定める新株予約権を行使することができる期間の満了日までとする。

その他の行使条件

上記「新株予約権の行使の条件」に準じて定めるものとする。

新株予約権の行使により株式を発行する場合における増加する資本金及び資本準備金に関する事項

上記「新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額」に準じて定めるものとする。

新株予約権の取得承認

譲渡による当該新株予約権の取得については、再編対象会社の承認を要する。

株主総会の特別決議日(平成20年 6月25日)	
	第2四半期会計期間末現在 (平成21年 9月30日)
新株予約権の数(個)	785(注) 1
新株予約権のうち自己新株予約権の数(個)	
新株予約権の目的となる株式の種類	普通株式 単元株式数は1,000株
新株予約権の目的となる株式の数(株)	785,000(注) 2
新株予約権の行使時の払込金額(円)	932(注) 3
新株予約権の行使期間	自 平成20年 8月26日 至 平成25年 8月25日
新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額(円)	発行価格 932 資本組入額 466
新株予約権の行使の条件	<p>新株予約権の割当を受けた者は、権利行使の時点において当社の取締役、執行役、使用人、相談役、顧問または関係会社の取締役、執行役員、顧問その他これらに準ずる地位であることを要する。但し、任期満了による退任、定年退職その他正当な理由がある場合には、その地位を失った後も、その日から2年が経過する日(但し、権利行使期間内)までに限り、行使することができる。</p> <p>新株予約権者は、新株予約権個数の全部または一部につき行使することができる。但し、一部を行使する場合には、割り当てられた新株予約権の整数倍の単位で行使するものとする。</p>
新株予約権の譲渡に関する事項	譲渡による当該新株予約権の取得については、当社取締役会の承認を要する。
代用払込みに関する事項	
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	(注) 4

- (注) 1 新株予約権 1 個につき目的となる株式数は、1,000株である。
- 2 当社が株式分割または株式併合を行う場合、次の算式により目的となる株式の数を調整するものとする。但し、かかる調整は、新株予約権のうち、当該時点で行使されていない新株予約権の目的となる株式の数についてのみ行われ、調整により生ずる 1 株未満の端数については、これを切り捨てるものとする。
- 調整後株式数 = 調整前株式数 × 分割・併合の比率
- また、当社が資本の減少を行う場合等、目的たる株式数の調整を必要とする場合には、当社は必要と認める株式数の調整を行うものとし、調整により生ずる 1 株未満の端数は切り捨てる。
- 3 当社が株式分割または株式併合を行う場合、次の算式により行使価額を調整し、調整により生ずる 1 円未満の端数は切り上げる。

$$\text{調整後行使価額} = \text{調整前行使価額} \times \frac{1}{\text{分割・併合の比率}}$$

また、時価を下回る価額で当社普通株式につき、新株の発行または自己株式の処分を行う場合は、次の算式により行使価額を調整し、調整により生ずる1円未満の端数は切り上げる。但し、新株予約権の行使の場合は、行使価額の調整は行わないこととする。

$$\text{調整後行使価額} = \text{調整前行使価額} \times \frac{\text{既発行株式数} + \frac{\text{新発行株式数} \times 1 \text{株当たり払込金額}}{\text{時価}}}{\text{既発行株式数} + \text{新発行株式数}}$$

なお、上記株式数において「既発行株式数」とは、当社の発行済株式総数から当社の保有する自己株式の総数を控除した数とし、また自己株式を処分する場合には、「新発行株式数」を「処分する自己株式数」に読み替えるものとする。

また、当社が資本の減少を行う場合等、行使価額の調整を必要とする場合には、当社は必要と認める行使価額の調整を行うものとし、調整により生ずる1円未満の端数は切り上げる。

- 4 当社が合併（合併により当社が消滅する場合に限る。）、吸収分割、新設分割、株式交換及び株式移転（以下「組織再編行為」という。）をする場合においては、組織再編行為の効力発生時点において残存する新株予約権（以下「残存新株予約権」という。）の新株予約権者に対し、合併後存続する株式会社または合併により設立する株式会社、分割する事業に関して有する権利義務の全部または一部を承継する株式会社、新設分割により設立する株式会社、当社の発行済株式の全部を取得する株式会社及び株式移転により設立する株式会社（以下「再編対象会社」という。）の新株予約権を下記の条件で交付することとする。この場合においては、残存新株予約権は消滅し、再編対象会社は新株予約権を新たに発行するものとする。但し、以下の条件に沿って再編対象会社の新株予約権を交付する旨を、吸収合併契約、新設合併契約、吸収分割契約、新設分割契約、株式交換契約または株式移転計画において定めた場合に限るものとする。

交付する再編対象会社の新株予約権の数

組織再編行為の効力発生の時点において残存する新株予約権の数と同一の数とする。

新株予約権の目的となる株式の種類

再編対象会社の普通株式

新株予約権の目的となる株式の数

組織再編行為の条件に応じて合理的に調整された数とし、調整により生ずる1株未満の端数は切り捨てる。

新株予約権の行使に際して出資される財産の価額

組織再編行為の条件に応じて合理的に調整された額とし、調整により生ずる1円未満の端数は切り上げる。

新株予約権の行使期間

上記「新株予約権の行使期間」に定める新株予約権を行使することができる期間の開始日と組織再編行為の効力発生日のいずれか遅い日から、上記「新株予約権の行使期間」に定める新株予約権を行使することができる期間の満了日までとする。

行使条件

上記「新株予約権の行使の条件」に準じて定めるものとする。

新株予約権の行使により株式を発行する場合における増加する資本金及び資本準備金に関する事項

上記「新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額」に準じて定めるものとする。

新株予約権の取得承認

譲渡による当該新株予約権の取得については、再編対象会社の承認を要する。

株主総会の特別決議日(平成21年 6月25日)	
	第2四半期会計期間末現在 (平成21年 9月30日)
新株予約権の数(個)	828(注) 1
新株予約権のうち自己新株予約権の数(個)	
新株予約権の目的となる株式の種類	普通株式 単元株式数は1,000株
新株予約権の目的となる株式の数(株)	828,000(注) 2
新株予約権の行使時の払込金額(円)	603(注) 3
新株予約権の行使期間	自 平成21年 8月25日 至 平成26年 8月24日
新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額(円)	発行価格 603 資本組入額 302
新株予約権の行使の条件	<p>新株予約権の割当を受けた者は、権利行使の時点において当社の取締役、執行役、使用人、相談役、顧問または関係会社の取締役、執行役員、顧問その他これらに準ずる地位であることを要する。但し、任期満了による退任、定年退職その他正当な理由がある場合には、その地位を失った後も、その日から2年が経過する日(但し、権利行使期間内)までに限り、行使することができる。</p> <p>新株予約権者は、新株予約権個数の全部または一部につき行使することができる。但し、一部を行使する場合には、割り当てられた新株予約権の整数倍の単位で行使するものとする。</p>
新株予約権の譲渡に関する事項	譲渡による当該新株予約権の取得については、当社取締役会の承認を要する。
代用払込みにに関する事項	
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	(注) 4

- (注) 1 新株予約権 1個につき目的となる株式数は、1,000株である。
- 2 当社が株式分割または株式併合を行う場合、次の算式により目的となる株式の数を調整するものとする。但し、かかる調整は、新株予約権のうち、当該時点で行使されていない新株予約権の目的となる株式の数についてのみ行われ、調整により生ずる 1株未満の端数については、これを切り捨てるものとする。
- 調整後株式数 = 調整前株式数 × 分割・併合の比率
- また、当社が資本の減少を行う場合等、目的たる株式数の調整を必要とする場合には、当社は必要と認める株式数の調整を行うものとし、調整により生ずる 1株未満の端数は切り捨てる。
- 3 当社が株式分割または株式併合を行う場合、次の算式により行使価額を調整し、調整により生ずる 1円未満の端数は切り上げる。

$$\text{調整後行使価額} = \text{調整前行使価額} \times \frac{1}{\text{分割・併合の比率}}$$

また、時価を下回る価額で当社普通株式につき、新株の発行または自己株式の処分を行う場合は、次の算式により行使価額を調整し、調整により生ずる1円未満の端数は切り上げる。但し、新株予約権の行使の場合は、行使価額の調整は行わないこととする。

$$\text{調整後行使価額} = \text{調整前行使価額} \times \frac{\text{既発行株式数} + \frac{\text{新発行株式数} \times 1 \text{株当たり払込金額}}{\text{時価}}}{\text{既発行株式数} + \text{新発行株式数}}$$

なお、上記株式数において「既発行株式数」とは、当社の発行済株式総数から当社の保有する自己株式の総数を控除した数とし、また自己株式を処分する場合には、「新発行株式数」を「処分する自己株式数」に読み替えるものとする。

また、当社が資本の減少を行う場合等、行使価額の調整を必要とする場合には、当社は必要と認める行使価額の調整を行うものとし、調整により生ずる1円未満の端数は切り上げる。

- 4 当社が合併（合併により当社が消滅する場合に限る。）、吸収分割、新設分割、株式交換及び株式移転（以下「組織再編行為」という。）をする場合においては、組織再編行為の効力発生時点において残存する新株予約権（以下「残存新株予約権」という。）の新株予約権者に対し、会社法第236条第1項第8号イからホまでに掲げる株式会社（以下「再編対象会社」という。）の新株予約権を下記の条件で交付することとする。この場合においては、残存新株予約権は消滅し、再編対象会社は新株予約権を新たに発行するものとする。但し、以下の条件に沿って再編対象会社の新株予約権を交付する旨を、吸収合併契約、新設合併契約、吸収分割契約、新設分割計画、株式交換契約又は株式移転計画において定めた場合に限るものとする。

交付する再編対象会社の新株予約権の数

組織再編行為の効力発生時点において残存する新株予約権の数と同一の数とする。

新株予約権の目的となる株式の種類

再編対象会社の普通株式

新株予約権の目的となる株式の数

組織再編行為の条件に応じて合理的に調整された数とし、調整により生ずる1円未満の端数は切り捨てる。

新株予約権の行使に際して出資される財産の価額

組織再編行為の条件に応じて合理的に調整された額とし、調整により生ずる1円未満の端数は切り捨てる。

新株予約権の行使期間

上記「新株予約権の行使期間」に定める新株予約権を行使することができる期間の開始日と組織再編行為の効力発生日のいずれか遅い日から、上記「新株予約権の行使期間」に定める新株予約権を行使することができる期間の満了日までとする。

行使条件

上記「新株予約権の行使の条件」に準じて定めるものとする。

新株予約権の行使により株式を発行する場合における増加する資本金及び資本準備金に関する事項

上記「新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額」に準じて定めるものとする。

新株予約権の取得承認

譲渡による当該新株予約権の取得については、再編対象会社の取締役会の決議を要する。



(3) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金 増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成21年7月1日～ 平成21年9月30日		551,268		67,176		77,923

(5) 【大株主の状況】

平成21年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
日本マスタートラスト信託銀行 株式会社(信託口)	東京都港区浜松町二丁目11番3号	42,495	7.71
富国生命保険相互会社	東京都千代田区内幸町二丁目2番2号	32,000	5.80
日本生命保険相互会社	東京都千代田区丸の内一丁目6番6号	30,575	5.55
日本トラスティ・サービス信託 銀行株式会社(信託口)	東京都中央区晴海一丁目8番11号	27,540	5.00
明治安田生命保険相互会社	東京都千代田区丸の内二丁目1番1号	26,726	4.85
株式会社みずほコーポレート銀行	東京都千代田区丸の内一丁目3番3号	21,511	3.90
日本トラスティ・サービス信託 銀行株式会社(住友信託銀行再 信託分・トヨタ自動車株式会社 退職給付信託口)	東京都中央区晴海一丁目8番11号	10,709	1.94
トヨタ自動車株式会社	愛知県豊田市トヨタ町1番地	10,000	1.81
株式会社三菱東京UFJ銀行	東京都千代田区丸の内二丁目7番1号	8,675	1.57
株式会社損害保険ジャパン	東京都新宿区西新宿一丁目2番6号	7,248	1.31
計		217,479	39.45

(注) 1 株式数は、千株未満を切り捨てております。

2 上記以外に、当社は自己株式10,272,263株(発行済株式総数に対する所有株式数の割合1.86%)を保有しております。

(6) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成21年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 10,272,000		単元株式数は1,000株
	(相互保有株式) 普通株式 681,000		同上
完全議決権株式(その他)	普通株式 538,640,000	538,640	同上
単元未満株式	普通株式 1,675,104		
発行済株式総数	551,268,104		
総株主の議決権		538,640	

(注) 「単元未満株式」欄には、当社の自己保有株式及び相互保有株式が次のとおり含まれております。

自己保有株式		263株
相互保有株式	NSKワナー(株)	98株
	八木工業(株) (自己名義)	221株
	(他人名義)	678株

【自己株式等】

平成21年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己株式) 日本精工(株)	東京都品川区大崎 一丁目6番3号	10,272,000	-	10,272,000	1.86
(相互保有株式) NSKワナー(株)	東京都品川区大崎 一丁目6番3号	420,000	-	420,000	0.08
井上軸受工業(株)	大阪府堺市一条通 19番21号	200,000	-	200,000	0.04
八木工業(株)	群馬県高崎市倉野町 3121番地	28,000	33,000	61,000	0.01
計		10,920,000	33,000	10,953,000	1.99

(注) 1. 相互保有株式におきまして株主名簿上は中外商事(株)名義となっておりますが、実質的に所有していない株式が1,000株(議決権1個)あります。尚、当該株式数は上記「発行済株式」の「完全議決権株式(その他)」欄の普通株式に含めております。

2. 八木工業(株)は、日本精工取引先持株会(東京都品川区大崎一丁目6番3号)の会員であり、他人名義欄に記載されている株式は全て同持株会名義となっております。

## 2 【株価の推移】

### 【当該四半期累計期間における月別最高・最低株価】

月別	平成21年 4月	5月	6月	7月	8月	9月
最高(円)	500	521	508	531	643	621
最低(円)	366	427	440	401	506	547

(注) 最高・最低株価は、東京証券取引所市場第一部におけるものであります。

## 3 【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書提出日後、当四半期報告書提出日までの役員の異動はありません。

## 第5 【経理の状況】

### 1 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号。以下「四半期連結財務諸表規則」という。)に基づいて作成しております。

なお、前第2四半期連結会計期間(平成20年7月1日から平成20年9月30日まで)及び前第2四半期連結累計期間(平成20年4月1日から平成20年9月30日まで)は、改正前の四半期連結財務諸表規則に基づき、当第2四半期連結会計期間(平成21年7月1日から平成21年9月30日まで)及び当第2四半期連結累計期間(平成21年4月1日から平成21年9月30日まで)は、改正後の四半期連結財務諸表規則に基づいて作成しております。

### 2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、前第2四半期連結会計期間(平成20年7月1日から平成20年9月30日まで)及び前第2四半期連結累計期間(平成20年4月1日から平成20年9月30日まで)に係る四半期連結財務諸表について、また、当第2四半期連結会計期間(平成21年7月1日から平成21年9月30日まで)及び当第2四半期連結累計期間(平成21年4月1日から平成21年9月30日まで)に係る四半期連結財務諸表について、新日本有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】  
 (1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	当第2四半期 連結会計期間末 (平成21年9月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成21年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	80,847	77,712
受取手形及び売掛金	115,380	97,890
有価証券	39,041	46,300
製品	61,342	60,965
仕掛品	31,737	34,926
原材料及び貯蔵品	10,416	10,777
その他	39,819	42,561
貸倒引当金	1,128	1,543
流動資産合計	377,457	369,590
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	1 69,846	1 71,423
機械装置及び運搬具（純額）	1 119,228	1 122,494
その他（純額）	1 55,568	1 55,803
有形固定資産合計	244,643	249,721
無形固定資産	10,638	10,483
投資その他の資産		
投資有価証券	70,064	58,842
前払年金費用	45,215	45,191
その他	12,106	10,949
貸倒引当金	534	549
投資その他の資産合計	126,852	114,433
固定資産合計	382,134	374,638
資産合計	759,591	744,229

(単位：百万円)

	当第2四半期 連結会計期間末 (平成21年9月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成21年3月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	89,143	74,006
短期借入金	87,897	90,175
1年内償還予定の社債	17,000	7,000
未払法人税等	1,973	1,915
その他	40,204	37,225
流動負債合計	236,218	210,322
固定負債		
社債	110,300	120,000
長期借入金	107,481	105,990
退職給付引当金	24,113	25,170
役員退職慰労引当金	1,333	1,439
環境対策引当金	168	174
その他	29,930	32,344
固定負債合計	273,327	285,119
負債合計	509,546	495,442
純資産の部		
株主資本		
資本金	67,176	67,176
資本剰余金	78,325	78,324
利益剰余金	126,406	134,455
自己株式	4,156	4,149
株主資本合計	267,752	275,807
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	10,558	5,528
為替換算調整勘定	44,156	47,940
評価・換算差額等合計	33,597	42,412
新株予約権	352	289
少数株主持分	15,537	15,102
純資産合計	250,044	248,787
負債純資産合計	759,591	744,229

(2)【四半期連結損益計算書】  
【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年9月30日)
売上高	383,325	257,871
売上原価	299,000	216,258
売上総利益	84,325	41,612
販売費及び一般管理費	<sup>1</sup> 55,712	<sup>1</sup> 45,524
営業利益又は営業損失( )	28,613	3,911
営業外収益		
受取利息	1,024	410
受取配当金	785	652
持分法による投資利益	1,953	1,012
その他	2,247	1,777
営業外収益合計	6,011	3,853
営業外費用		
支払利息	3,047	2,917
製品補償費	1,290	3,931
その他	1,368	1,809
営業外費用合計	5,707	8,658
経常利益又は経常損失( )	28,916	8,716
特別利益		
固定資産売却益	489	-
特別利益合計	489	-
特別損失		
事業構造改善費用	-	1,120
投資有価証券評価損	1,739	-
特別損失合計	1,739	1,120
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失( )	27,666	9,836
法人税等	<sup>2</sup> 8,883	<sup>2</sup> 4,107
少数株主利益	1,117	165
四半期純利益又は四半期純損失( )	17,666	5,894

【第2四半期連結会計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結会計期間 (自平成20年7月1日 至平成20年9月30日)	当第2四半期連結会計期間 (自平成21年7月1日 至平成21年9月30日)
売上高	191,863	142,066
売上原価	150,249	117,821
売上総利益	41,613	24,244
販売費及び一般管理費	<sup>1</sup> 28,263	<sup>1</sup> 23,638
営業利益	13,350	606
営業外収益		
受取利息	607	207
受取配当金	46	28
持分法による投資利益	894	525
その他	997	481
営業外収益合計	2,545	1,242
営業外費用		
支払利息	1,501	1,319
製品補償費	915	537
その他	744	594
営業外費用合計	3,162	2,451
経常利益又は経常損失( )	12,733	601
特別損失		
事業構造改善費用	-	1,120
投資有価証券評価損	1,739	-
特別損失合計	1,739	1,120
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期 純損失( )	10,994	1,721
法人税等	<sup>2</sup> 2,341	<sup>2</sup> 1,315
少数株主利益	601	141
四半期純利益又は四半期純損失( )	8,051	547



## (3)【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失( )	27,666	9,836
減価償却費	19,420	18,171
のれん償却額	342	504
貸倒引当金の増減額( は減少)	67	447
退職給付引当金及び前払年金費用の増減額	3,141	1,208
受取利息及び受取配当金	1,810	1,062
支払利息	3,047	2,917
持分法による投資損益( は益)	1,953	1,012
事業構造改善費用	-	1,120
有形固定資産売却損益( は益)	489	-
投資有価証券評価損益( は益)	1,739	-
売上債権の増減額( は増加)	10,322	17,368
たな卸資産の増減額( は増加)	19,680	4,150
仕入債務の増減額( は減少)	1,734	15,582
その他	4,462	515
小計	20,949	12,025
利息及び配当金の受取額	4,538	1,548
利息の支払額	3,185	2,918
法人税等の支払額	7,910	4,919
営業活動によるキャッシュ・フロー	14,391	15,574
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金の純増減額( は増加)	30	13
有価証券の取得による支出	3,500	0
有価証券の売却による収入	8,284	17
有形固定資産の取得による支出	30,476	12,093
有形固定資産の売却による収入	867	681
投資有価証券の取得による支出	953	3,399
投資有価証券の売却による収入	60	505
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	-	413
貸付けによる支出	91	31
貸付金の回収による収入	70	58
その他	1,174	1,011
投資活動によるキャッシュ・フロー	26,943	15,672

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年9月30日)
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額（は減少）	3,666	3,222
長期借入れによる収入	6,830	1,016
長期借入金の返済による支出	5,451	1,417
社債の償還による支出	10,000	-
自己株式の取得による支出	45	10
配当金の支払額	5,408	2,167
少数株主への配当金の支払額	572	116
その他	189	56
財務活動によるキャッシュ・フロー	10,792	5,860
現金及び現金同等物に係る換算差額	865	813
現金及び現金同等物の増減額（は減少）	24,209	5,144
現金及び現金同等物の期首残高	113,226	124,944
連結子会社の決算期変更による増加高	-	477
現金及び現金同等物の四半期末残高	1 89,017	1 120,276

【四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更】

	当第2四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年9月30日)
1. 連結の範囲に関する事項の変更	<p>(1) 連結の範囲の変更 当第2四半期連結会計期間より国内1社、海外1社を新たに連結子会社としております。 その会社名は以下のとおりであります。 (会社設立による増加) 瀋陽恩斯克精密機器有限公司 (所有割合変更に伴う持分法適用会社からの異動) ㈱栗林製作所</p> <p>また、当第2四半期連結会計期間より国内1社を連結の範囲から除外しております。 その会社名は以下のとおりであります。 (吸収合併による減少) N S K販売㈱</p> <p>(2) 変更後の連結子会社の数 90社</p>
2. 持分法の適用に関する事項の変更	<p>(1) 持分法適用関連会社の変更 当第2四半期連結会計期間より国内1社を持分法適用会社から除外しております。 その会社名は以下のとおりであります。 (所有割合変更に伴う連結子会社への異動) ㈱栗林製作所</p> <p>(2) 変更後の持分法適用関連会社の数 16社</p>

【簡便な会計処理】

	当第2四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年9月30日)
1. 繰延税金資産の回収可能性の判断	繰延税金資産の回収可能性の判断に関しては、前連結会計年度末以降に経営環境等、かつ、一時差異等の発生状況に著しい変化がないと認められる場合に、前連結会計年度決算において使用した将来の業績予測やタックス・プランニングを利用する方法によっております。

【四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理】

	当第2四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年9月30日)
1. 税金費用の計算	税金費用については、当第2四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

当第2四半期連結会計期間末 (平成21年9月30日)	前連結会計年度末 (平成21年3月31日)																								
<p>1 有形固定資産の減価償却累計額は、551,068百万円 であります。</p> <p>偶発債務ほか (1)保証債務</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>相手先</th> <th>金額(百万円)</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>当社従業員</td> <td>57</td> <td>財形貸付融資</td> </tr> <tr> <td>MSPインダストリーズ社</td> <td>150</td> <td>銀行借入</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>207</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) 手形債権信託契約に基づく債権譲渡高 手形債権信託契約に基づく債権譲渡高は5,036百 万円であります。</p>	相手先	金額(百万円)	内容	当社従業員	57	財形貸付融資	MSPインダストリーズ社	150	銀行借入	計	207		<p>1 有形固定資産の減価償却累計額は、534,210百万円 であります。</p> <p>偶発債務ほか (1)保証債務</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>相手先</th> <th>金額(百万円)</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>当社従業員</td> <td>67</td> <td>財形貸付融資</td> </tr> <tr> <td>MSPインダストリーズ社</td> <td>272</td> <td>銀行借入</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>339</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) 手形債権信託契約に基づく債権譲渡高 手形債権信託契約に基づく債権譲渡高は6,222百 万円であります。</p>	相手先	金額(百万円)	内容	当社従業員	67	財形貸付融資	MSPインダストリーズ社	272	銀行借入	計	339	
相手先	金額(百万円)	内容																							
当社従業員	57	財形貸付融資																							
MSPインダストリーズ社	150	銀行借入																							
計	207																								
相手先	金額(百万円)	内容																							
当社従業員	67	財形貸付融資																							
MSPインダストリーズ社	272	銀行借入																							
計	339																								

(四半期連結損益計算書関係)

第2四半期連結累計期間

前第2四半期連結累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年9月30日)
<p>1 販売費及び一般管理費のうち、主要な費目及び 金額は次のとおりであります。</p> <p>給料及び賞与 19,918百万円 退職給付引当金繰入額 342百万円 役員退職慰労引当金繰入額 136百万円 貸倒引当金繰入額 56百万円</p> <p>2 当第2四半期連結累計期間における税金費用に ついては、四半期連結財務諸表の作成に特有の 会計処理により計算しているため、法人税等調 整額は、「法人税等」に含めて表示しておりま す。</p>	<p>1 販売費及び一般管理費のうち、主要な費目及び 金額は次のとおりであります。</p> <p>給料及び賞与 17,027百万円 退職給付引当金繰入額 1,932百万円 役員退職慰労引当金繰入額 211百万円</p> <p>2 当第2四半期連結累計期間における税金費用に ついては、四半期連結財務諸表の作成に特有の 会計処理により計算しているため、法人税等調 整額は、「法人税等」に含めて表示しておりま す。</p>

第2四半期連結会計期間

前第2四半期連結会計期間 (自平成20年7月1日 至平成20年9月30日)	当第2四半期連結会計期間 (自平成21年7月1日 至平成21年9月30日)
<p>1 販売費及び一般管理費のうち、主要な費目及び 金額は次のとおりであります。</p> <p>給料及び賞与 10,154百万円 退職給付引当金繰入額 142百万円 役員退職慰労引当金繰入額 68百万円 貸倒引当金繰入額 66百万円</p> <p>2 当第2四半期連結会計期間における税金費用に ついては、四半期連結財務諸表の作成に特有の 会計処理により計算しているため、法人税等調 整額は、「法人税等」に含めて表示しておりま す。</p>	<p>1 販売費及び一般管理費のうち、主要な費目及び 金額は次のとおりであります。</p> <p>給料及び賞与 8,703百万円 退職給付引当金繰入額 1,239百万円 役員退職慰労引当金繰入額 104百万円</p> <p>2 当第2四半期連結会計期間における税金費用に ついては、四半期連結財務諸表の作成に特有の 会計処理により計算しているため、法人税等調 整額は、「法人税等」に含めて表示しておりま す。</p>

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

前第2四半期連結累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年9月30日)
1 現金及び現金同等物の当第2四半期連結累計期間 末残高と当第2四半期連結貸借対照表に掲記され ている科目の金額との関係 (平成20年9月30日現在)	1 現金及び現金同等物の当第2四半期連結累計期間 末残高と当第2四半期連結貸借対照表に掲記され ている科目の金額との関係 (平成21年9月30日現在)
現金及び預金勘定 預入期間が 3か月を超える定期預金 有価証券勘定より 政府短期証券 マネー・マネジメント・ ファンド等 流動資産のその他勘定より 売掛債権等信託受益権 現金及び現金同等物	現金及び預金勘定 預入期間が 3か月を超える定期預金 取得日から3か月以内に償還期限 の到来する有価証券 流動資産のその他勘定より 売掛債権等信託受益権 現金及び現金同等物
60,081百万円 351百万円 6,993百万円 20,293百万円 2,000百万円 89,017百万円	80,847百万円 290百万円 36,720百万円 3,000百万円 120,276百万円

(株主資本等関係)

当第2四半期連結会計期間末(平成21年9月30日)及び当第2四半期連結累計期間(自平成21年4月1日  
至平成21年9月30日)

1 発行済株式の種類及び総数

普通株式 551,268,104株

2 自己株式の種類及び株式数

普通株式 10,683,185株

3 新株予約権の四半期連結会計期間末残高

ストック・オプションとしての新株予約権 352百万円(親会社 352百万円)

4 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成21年5月22日 取締役会	普通株式	2,164	4.00	平成21年3月31日	平成21年6月12日	利益剰余金

(2) 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期  
連結会計期間末後となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成21年10月30日 取締役会	普通株式	2,163	4.00	平成21年9月30日	平成21年12月4日	利益剰余金

(セグメント情報)

【事業の種類別セグメント情報】

前第2四半期連結会計期間(自平成20年7月1日至平成20年9月30日)

	産業機械 軸受 (百万円)	自動車 関連製品 (百万円)	精密機器 関連製品 (百万円)	その他 (百万円)	計 (百万円)	消去又は 全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高							
(1)外部顧客に対する売上高	61,048	106,180	16,148	8,485	191,863	-	191,863
(2)セグメント間の内部売上高又は振替高	-	-	-	7,250	7,250	(7,250)	-
計	61,048	106,180	16,148	15,736	199,113	(7,250)	191,863
営業利益	7,996	4,696	1,568	814	15,075	(1,725)	13,350

当第2四半期連結会計期間(自平成21年7月1日至平成21年9月30日)

	産業機械 軸受 (百万円)	自動車 関連製品 (百万円)	精密機器 関連製品 (百万円)	その他 (百万円)	計 (百万円)	消去又は 全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高							
(1)外部顧客に対する売上高	41,108	89,005	7,362	4,588	142,066	-	142,066
(2)セグメント間の内部売上高又は振替高	-	-	-	3,327	3,327	(3,327)	-
計	41,108	89,005	7,362	7,916	145,394	(3,327)	142,066
営業利益又は営業損失( )	1,377	3,771	2,655	290	2,202	(1,596)	606

前第2四半期連結累計期間(自平成20年4月1日至平成20年9月30日)

	産業機械 軸受 (百万円)	自動車 関連製品 (百万円)	精密機器 関連製品 (百万円)	その他 (百万円)	計 (百万円)	消去又は 全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高							
(1)外部顧客に対する売上高	121,700	214,138	31,053	16,433	383,325	-	383,325
(2)セグメント間の内部売上高又は振替高	-	-	-	13,479	13,479	(13,479)	-
計	121,700	214,138	31,053	29,912	396,804	(13,479)	383,325
営業利益	16,194	10,823	2,974	1,757	31,750	(3,137)	28,613

当第2四半期連結累計期間(自平成21年4月1日至平成21年9月30日)

	産業機械 軸受 (百万円)	自動車 関連製品 (百万円)	精密機器 関連製品 (百万円)	その他 (百万円)	計 (百万円)	消去又は 全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高							
(1)外部顧客に対する売上高	76,176	159,759	13,624	8,310	257,871	-	257,871
(2)セグメント間の内部売上高又は振替高	-	-	-	6,607	6,607	(6,607)	-
計	76,176	159,759	13,624	14,917	264,478	(6,607)	257,871
営業利益又は営業損失( )	331	3,740	4,471	939	1,338	(2,572)	3,911

(注) 1 事業の種類区分は、当社の内部管理上の区分によっております。

2 各事業区分に属する主要製品

産業機械軸受 : 標準玉軸受(ミニアチュア軸受・小径軸受・並径軸受)

一般産業用軸受(大形玉軸受・円すいころ軸受・円筒ころ軸受・

自動調心ころ軸受・精密軸受)

自動車関連製品 : ハブユニット軸受、ニードル軸受、小形円すいころ軸受、標準玉軸受、

ステアリング、電動パワーステアリング、自動変速機(AT)用部品

精密機器関連製品 : ボールねじ、リニアガイド、XYテーブル、メガトルクモータ、

液晶パネル用露光装置

その他 : 機械設備、鋼球等

【所在地別セグメント情報】

前第2四半期連結会計期間（自平成20年7月1日至平成20年9月30日）

	日本 (百万円)	米州 (百万円)	欧州 (百万円)	アジア (百万円)	計 (百万円)	消去又は 全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高							
(1)外部顧客に対する売上高	110,783	24,048	32,656	24,375	191,863	-	191,863
(2)セグメント間の内部売上高又は振替高	32,120	292	1,654	6,931	40,999	(40,999)	-
計	142,904	24,340	34,311	31,307	232,862	(40,999)	191,863
営業利益	7,485	1,368	2,623	3,491	14,969	(1,619)	13,350

当第2四半期連結会計期間（自平成21年7月1日至平成21年9月30日）

	日本 (百万円)	米州 (百万円)	欧州 (百万円)	アジア (百万円)	計 (百万円)	消去又は 全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高							
(1)外部顧客に対する売上高	81,395	16,950	23,661	20,058	142,066	-	142,066
(2)セグメント間の内部売上高又は振替高	22,654	86	454	4,475	27,670	(27,670)	-
計	104,049	17,037	24,116	24,533	169,736	(27,670)	142,066
営業利益又は営業損失( )	762	547	829	1,345	1,959	(1,353)	606



前第2四半期連結累計期間(自平成20年4月1日至平成20年9月30日)

	日本 (百万円)	米州 (百万円)	欧州 (百万円)	アジア (百万円)	計 (百万円)	消去又は 全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高							
(1)外部顧客に対する売上高	218,787	48,465	68,523	47,549	383,325	-	383,325
(2)セグメント間の内部売上高又は振替高	62,723	583	3,185	13,435	79,928	(79,928)	-
計	281,511	49,048	71,709	60,984	463,254	(79,928)	383,325
営業利益	16,407	2,161	6,129	6,737	31,435	(2,822)	28,613

当第2四半期連結累計期間(自平成21年4月1日至平成21年9月30日)

	日本 (百万円)	米州 (百万円)	欧州 (百万円)	アジア (百万円)	計 (百万円)	消去又は 全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高							
(1)外部顧客に対する売上高	146,846	30,510	45,577	34,936	257,871	-	257,871
(2)セグメント間の内部売上高又は振替高	40,669	166	850	7,955	49,642	(49,642)	-
計	187,516	30,677	46,428	42,891	307,513	(49,642)	257,871
営業利益又は営業損失( )	5,121	114	2,213	1,666	1,126	(2,784)	3,911

- (注) 1 国又は地域の区分は、地理的近接度によっております。  
2 本邦以外の区分に属する主な国又は地域  
米州：米州、カナダ、メキシコ、ブラジル等  
欧州：英国、ドイツ、ポーランド等欧州諸国等  
アジア：東アジア及び東南アジア諸国、インド、オーストラリア等

【海外売上高】

前第2四半期連結会計期間（自平成20年7月1日至平成20年9月30日）

	米州	欧州	アジア	計
海外売上高（百万円）	24,536	33,031	36,953	94,520
連結売上高（百万円）	-	-	-	191,863
連結売上高に占める海外売上高の割合（%）	12.8	17.2	19.3	49.3

当第2四半期連結会計期間（自平成21年7月1日至平成21年9月30日）

	米州	欧州	アジア	計
海外売上高（百万円）	17,466	23,610	30,593	71,670
連結売上高（百万円）	-	-	-	142,066
連結売上高に占める海外売上高の割合（%）	12.3	16.6	21.5	50.4

前第2四半期連結累計期間（自平成20年4月1日至平成20年9月30日）

	米州	欧州	アジア	計
海外売上高（百万円）	49,433	69,261	71,769	190,465
連結売上高（百万円）	-	-	-	383,325
連結売上高に占める海外売上高の割合（%）	12.9	18.1	18.7	49.7

当第2四半期連結累計期間（自平成21年4月1日至平成21年9月30日）

	米州	欧州	アジア	計
海外売上高（百万円）	31,311	45,502	54,311	131,125
連結売上高（百万円）	-	-	-	257,871
連結売上高に占める海外売上高の割合（%）	12.1	17.6	21.1	50.8

(注) 1 海外売上高は、当社及び連結子会社の本邦以外の国又は地域における売上高であります。

2 国又は地域の区分は、地理的近接度によっております。

3 各区分に属する主な国又は地域

米州：米国、カナダ、メキシコ、ブラジル等

欧州：英国、ドイツ、ポーランド等欧州諸国等

アジア：東アジア及び東南アジア諸国、インド、オーストラリア等

(企業結合等関係)

当第2四半期連結会計期間(自平成21年7月1日 至平成21年9月30日)

共通支配下の取引等

1. 結合当事企業の名称及びその事業の内容、企業結合の法的形式、結合後企業の名称並びに取引の目的を含む取引の概要

(1) 結合当事企業の名称及びその事業の内容

結合当時企業の名称

NSK販売㈱

事業の内容

産業機械軸受、自動車関連製品、精密機器関連製品等の販売

(2) 企業結合の法的形式

当社を存続会社とする吸収合併形式とし、NSK販売㈱は解散いたしました。

(3) 結合後企業の名称

日本精工㈱

(4) 取引の目的を含む取引の概要

当社グループの産業機械向け国内営業は、軸受・精密機器関連製品各々の製品戦略と市場特性を組み合わせ、事業拡大を推進していましたが、更に顧客満足度の向上を図り、急速に変化する市場動向に迅速に対応していくため、100%子会社であるNSK販売㈱を、平成21年8月1日付で当社に吸収合併いたしました。

2. 実施した会計処理の概要

当該吸収合併は、「企業結合に係る会計基準」(企業会計審議会平成15年10月31日)及び「企業結合会計基準及び事業分離等会計基準に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第10号 最終改正平成19年11月15日)に基づき、共通支配下の取引として会計処理を行っております。

(1株当たり情報)

1 1株当たり純資産額

当第2四半期連結会計期間末 (平成21年9月30日)		前連結会計年度末 (平成21年3月31日)	
1株当たり純資産額	433円15銭	1株当たり純資産額	431円74銭

(注) 1株当たり純資産額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	当第2四半期連結会計期間末 (平成21年9月30日)	前連結会計年度末 (平成21年3月31日)
純資産の部の合計額(百万円)	250,044	248,787
純資産の部の合計額から控除する金額(百万円)	15,890	15,391
(うち新株予約権)(百万円)	(352)	(289)
(うち少数株主持分)(百万円)	(15,537)	(15,102)
普通株式に係る四半期連結会計期間末(連結会計年度末)の純資産額(百万円)	234,154	233,395
1株当たり純資産額の算定に用いられた四半期連結会計期間末(連結会計年度末)の普通株式の数(千株)	540,584	540,596

2 1株当たり四半期純利益金額又は四半期純損失金額等

第2四半期連結累計期間

前第2四半期連結累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年9月30日)		当第2四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年9月30日)	
1株当たり四半期純利益金額	32円68銭	1株当たり四半期純損失金額	10円90銭
潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額	32円67銭	なお、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、四半期純損益が純損失のため記載しておりません。	

(注) 1株当たり四半期純利益金額又は四半期純損失金額及び潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年9月30日)
(1) 1株当たり四半期純利益金額又は四半期純損失金額( )		
四半期純利益又は四半期純損失( )(百万円)	17,666	5,894
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る四半期純利益又は四半期純損失( )(百万円)	17,666	5,894
普通株式の期中平均株式数(千株)	540,595	540,587
(2) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額		
四半期純利益調整額(百万円)	-	-
普通株式増加数(千株)	129	-
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式で、前連結会計年度末から重要な変動があったものの概要	該当事項はありません。	同左

第2四半期連結会計期間

前第2四半期連結会計期間 (自平成20年7月1日 至平成20年9月30日)		当第2四半期連結会計期間 (自平成21年7月1日 至平成21年9月30日)	
1株当たり四半期純利益金額	14円89銭	1株当たり四半期純損失金額	1円01銭
潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額	14円89銭	なお、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、四半期純損益が純損失のため記載しておりません。	

(注) 1株当たり四半期純利益金額又は四半期純損失金額及び潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第2四半期連結会計期間 (自平成20年7月1日 至平成20年9月30日)	当第2四半期連結会計期間 (自平成21年7月1日 至平成21年9月30日)
(1) 1株当たり四半期純利益金額又は四半期純損失金額( )		
四半期純利益又は四半期純損失( )(百万円)	8,051	547
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る四半期純利益又は四半期純損失( )(百万円)	8,051	547
普通株式の期中平均株式数(千株)	540,599	540,585
(2) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額		
四半期純利益調整額(百万円)	-	-
普通株式増加数(千株)	96	-
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式で、前連結会計年度末から重要な変動があったものの概要	該当事項はありません。	同左

## 2 【その他】

平成21年10月30日開催の取締役会において第149期中間配当に関し、次のとおり決議いたしました。

中間配当額 2,163,983,364円

1株当たり中間配当金 4円00銭

中間配当金支払開始日 平成21年12月4日

(注) 平成21年9月30日最終の株主名簿に記載又は記録された株主又は登録質権者に対し、支払を行いません。

## 第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成20年11月13日

日本精工株式会社  
取締役会 御中

### 新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	中 村 雅 一 印
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	沼 田 徹 印
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	関 口 弘 和 印
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	堀 越 喜 臣 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている日本精工株式会社の平成20年4月1日から平成21年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間(平成20年7月1日から平成20年9月30日まで)及び第2四半期連結累計期間(平成20年4月1日から平成20年9月30日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書及び四半期連結キャッシュ・フロー計算書について四半期レビューを行った。この四半期連結財務諸表の作成責任は経営者であり、当監査法人の責任は独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューは、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続により行われており、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べ限定された手続により行われた。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、日本精工株式会社及び連結子会社の平成20年9月30日現在の財政状態、同日をもって終了する第2四半期連結会計期間及び第2四半期連結累計期間の経営成績並びに第2四半期連結累計期間のキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- (注) 1 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。
- 2 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。



## 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成21年11月11日

日本精工株式会社  
取締役会 御中

### 新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	中 村 雅 一 印
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	沼 田 徹 印
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	関 口 弘 和 印
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	堀 越 喜 臣 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている日本精工株式会社の平成21年4月1日から平成22年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間(平成21年7月1日から平成21年9月30日まで)及び第2四半期連結累計期間(平成21年4月1日から平成21年9月30日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書及び四半期連結キャッシュ・フロー計算書について四半期レビューを行った。この四半期連結財務諸表の作成責任は経営者であり、当監査法人の責任は独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューは、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続により行われており、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べ限定された手続により行われた。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、日本精工株式会社及び連結子会社の平成21年9月30日現在の財政状態、同日をもって終了する第2四半期連結会計期間及び第2四半期連結累計期間の経営成績並びに第2四半期連結累計期間のキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- (注) 1 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。
- 2 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。